

# 平成28年度 県学習状況調査

## 能代市分析結果

能代市教育委員会

# I 実施の状況

## 1 実施目的

学習指導要領の内容の定着度等を把握し、本県が進める少人数学習の成果や課題を捉え、学習指導の工夫改善を図るとともに、全国学力・学習状況調査、本調査及び高校入試を活用して、学習指導における検証改善サイクルを確立し、児童生徒の学力向上に資する。

## 2 実施学年

小学校4年生～中学校2年生

## 3 実施教科

小学校4年生 : 国語、算数、理科  
小学校5、6年生 : 国語、社会、算数、理科  
中学校1、2年生 : 国語、社会、数学、理科、英語

## 4 調査内容

- ①教科に関する調査
- ②質問紙調査

## 5 実施期日

平成28年11月30日（水）、12月1日（木）

※ 各教科における「2 各学年の結果について」は、本市の平均正答率が県の平均正答率を下回った問題あるいは設定通過率を下回った問題の中から、特に、指導方法の工夫改善が求められる内容を掲載しております。

※ 「Ⅲ 質問紙調査結果について」は、全国学力・学習状況調査の質問内容と重なった部分については、除いている項目もあります。学習意欲や学習状況、読書、規範意識等について掲載しております。

# Ⅱ 教科に関する調査結果

## 1 概要について

小・中学校とも、とても良好な状況です

### <小学校>

#### (1) 県平均を上回る教科

全11教科、すべてにおいて県平均を上回っています。

4年生 国語、算数、理科  
5年生 国語、社会、算数、理科  
6年生 国語、社会、算数、理科

※県平均を大きく上回る教科（5ポイント以上）

4年生 国語、算数  
5年生 社会  
6年生 国語、社会、算数

#### (2) 昨年度との比較から

昨年度と同様、県平均を下回る教科はありません。これは4年連続となります。

また、県平均を5ポイント以上上回る教科が、昨年度と同様6教科ありました。

### <中学校>

#### (1) 県平均を上回る教科

全10教科、すべてにおいて県平均を上回っています。

1年生 国語、社会、数学、理科、英語  
2年生 国語、社会、数学、理科、英語

※県平均を大きく上回る教科（5ポイント以上）

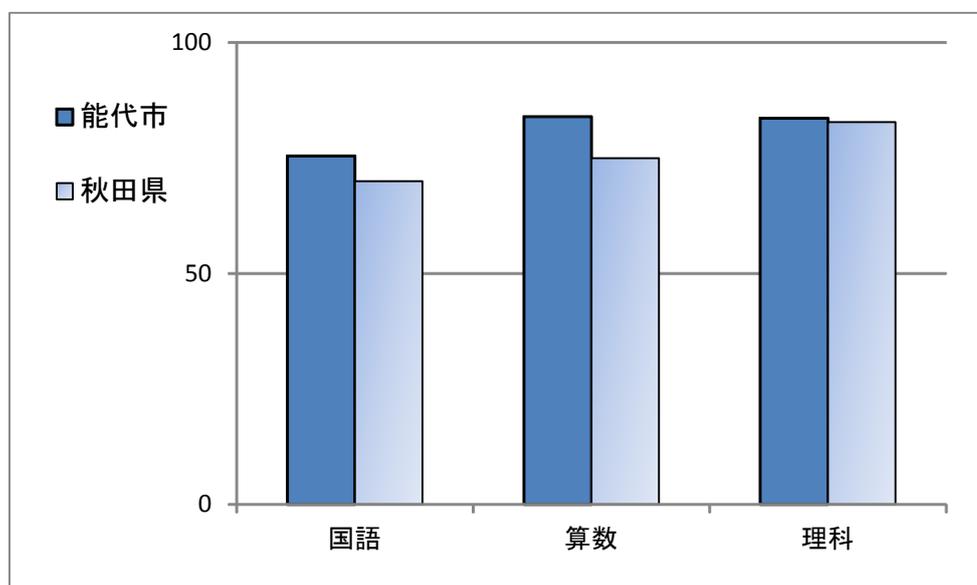
1年生 数学  
2年生 社会、英語

#### (2) 昨年度との比較から

2年連続県平均を下回っていた2年生の理科が、今年度は4.2ポイント県平均を上回りました。

## 2 各学年の結果について

### (1) 小学校 4 年生平均正答率



☆ **各教科とも良好な状況です**

○全ての教科が県平均を上回る。特に国語、算数は5ポイント以上上回っている。

<国語> 12問中、11問で県平均を上回るが、「ローマ字を書く」においては、5.6ポイント県平均を下回る。

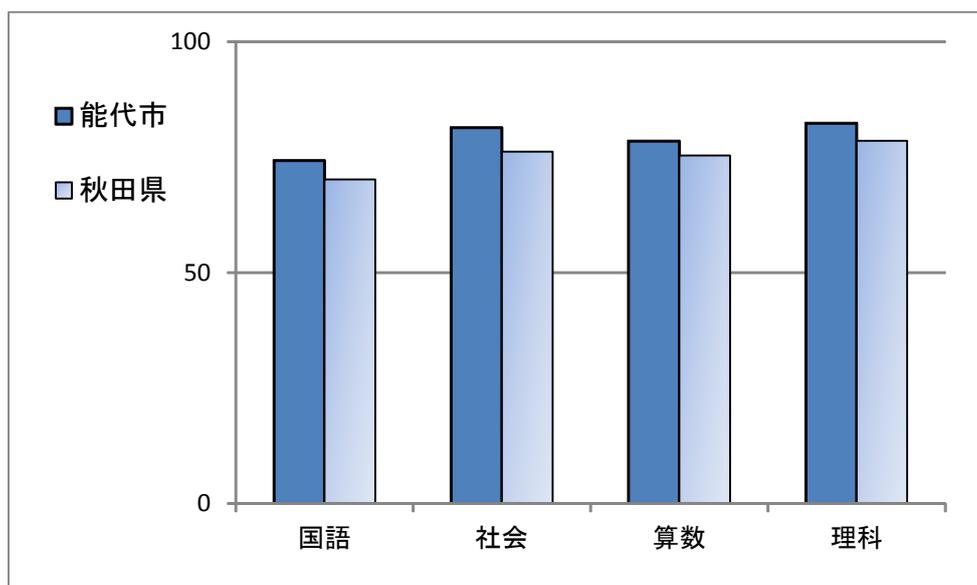
<算数> 20問全てが県平均を上回る。特に「直接比較による具体物の重さの判断」や「目的に応じたグラフの活用」においては20ポイント程度、県平均を上回る。

<理科> 12問中、6問が県平均を上回る。「ゴムの働き」では、10ポイント程度県平均を上回るものの、次のとおり県平均を下回る問題も多い。

★県平均を下回る主な課題・設問(▼特に県平均を5ポイント以上下回った問題)

国語	①ローマ字で書く▼ <u>denki (電気)</u> (※小5でもローマ字に課題)
理科	①筋肉の動き▼ <u>腕を伸ばすとき、上腕二頭筋はゆるみ、三頭筋は縮む</u> ②方位磁針の使い方 ③電気の働き ④天気と1日の気温の変化 ⑤月の観察 ⑥月の動き

## (2) 小学校 5 年生平均正答率



### ☆ 各教科とも良好な状況です

○全ての教科が県平均を上回る。特に社会は5ポイント以上上回っている。

＜国語＞16問中、14問が県平均を上回る。特に、「事実と意見の関係を押さえる」や「根拠を明確にして自分の考えを書く（作文）」の問題は、10ポイント以上県平均を上回る。

＜社会＞20問中、18問が県平均を上回る。特に、「地域の販売の工夫」や「安全を守る地域の人々の工夫や努力」の問題では、県平均を20ポイント以上上回る。

＜算数＞20問中、15問が県平均を上回る。特に「図形の性質を用いた説明」は20ポイント以上県平均を上回るが、「伴って変わる数量の関係の読み取りと表現」など、わずかではあるが県平均を下回る問題もある。

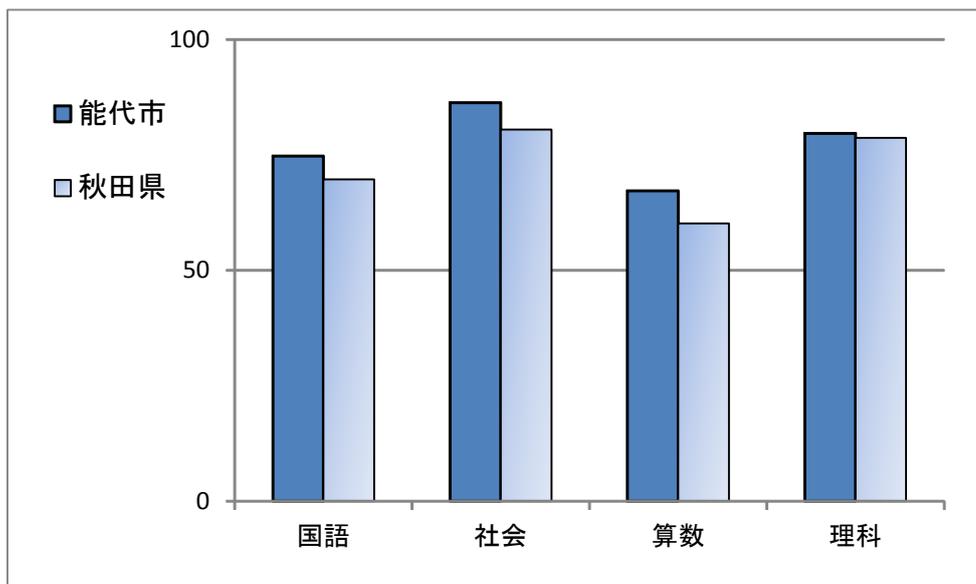
＜理科＞20問中、19問が県平均を上回る。特に、「金属の熱の伝わり方」は県平均を10ポイント以上上回る。

### ★県平均を下回る主な課題・設問(▼特に県平均を5ポイント以上下回った問題)

国語	① ローマ字を書く(※小4でもローマ字に課題) ②文章の要旨を捉える
社会	① 米づくりにおける機械化の長所と短所 ②水産物の生産や輸送にかかる費用
算数	①分数の意味理解と表現 ②直方体の見取図 ③伴って変わる数量の捉え ④伴って変わる数量の関係の読み取りと表現 ⑤図形の性質に基づいた判断
理科	①顕微鏡の使い方(※中1でも顕微鏡の使い方に課題)

\*小5では、県平均を5ポイント以上下回る問題はありませんでした。

### (3) 小学校 6 年生平均正答率



☆ **各教科とも、大変良好な状況です**

○全ての教科が全県平均を上回る。国語、社会、算数は県平均を5ポイント以上上回っている。

＜国語＞20問中、18問が県平均を上回る。特に、毎年課題とされていた「修飾語の理解」は、県平均を10ポイント以上上回る。

＜社会＞20問全て県平均を上回る。特に、「都道府県の名称と位置」「全国統一から鎖国までの流れ」「伊能忠敬の業績」の問題では、県平均を10ポイント以上上回る。

＜算数＞20問全て県平均を上回る。特に、「分数の意味」や「分数の計算における乗数と積、除数と商の関係」などの5問では、県平均を10ポイント以上上回る。

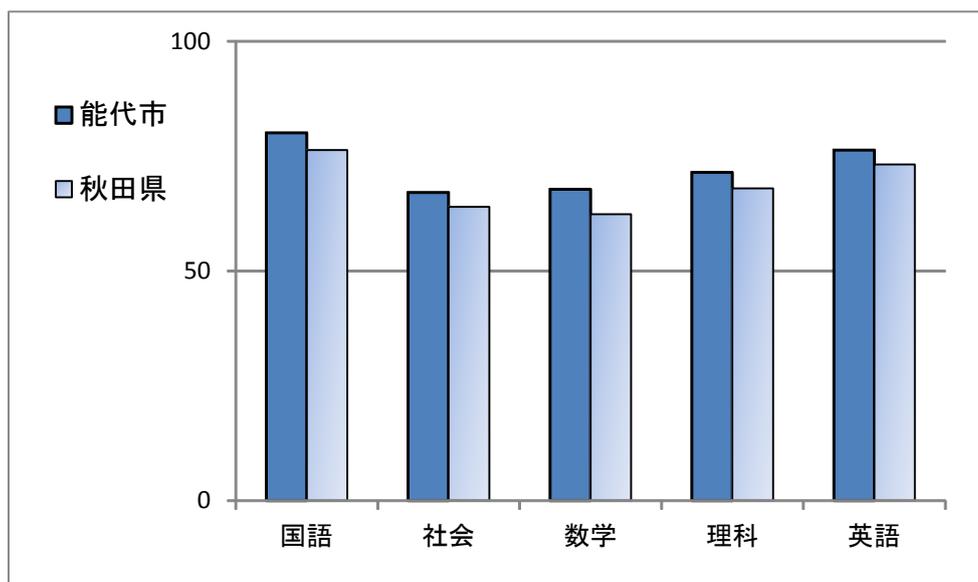
＜理科＞20問中、12問が県平均を上回る。「川の間所による水の流れる速さの違い」や「電流の向きと電磁石の極の関係」では、県平均を5ポイント以上上回っているが、次のとおり県平均を下回った問題も多い。

★県平均を下回る主な課題・設問(▼特に県平均を5ポイント以上下回った問題)

国語	①漢字の書き(増築) ②叙述を根拠にした考えの形成
理科	①振り子の規則性を利用したおもちゃの仕組み ②燃焼後の物質の割合 ③気体検知管の使い方 ④呼吸する器官の位置と名称 ⑤月の形が日によって変わる理由 ⑥新月の見える位置 ⑦インゲンマメの成長に必要な条件を調べる実験計画 ⑧蒸散の働き

\*小6では、県平均を5ポイント以上下回る問題はありませんでした。

#### (4) 中学校 1 年生平均正答率



#### ☆ 各教科とも良好な状況です

○全ての教科が全県平均を上回る。特に、数学は県平均を5ポイント以上上回っている。

<国語> 20問中、17問が県平均を上回る。特に「文脈に即した漢字」と「手紙の書き方についての理解」の問題では、県平均を10ポイント以上上回る。

<社会> 20問中、15問が県平均を上回る。特に「政治の中心地」は、県平均を10ポイント以上上回る。

<数学> 20問全てが県平均を上回る。特に「比例式の立式」は、県平均を10ポイント以上上回る。

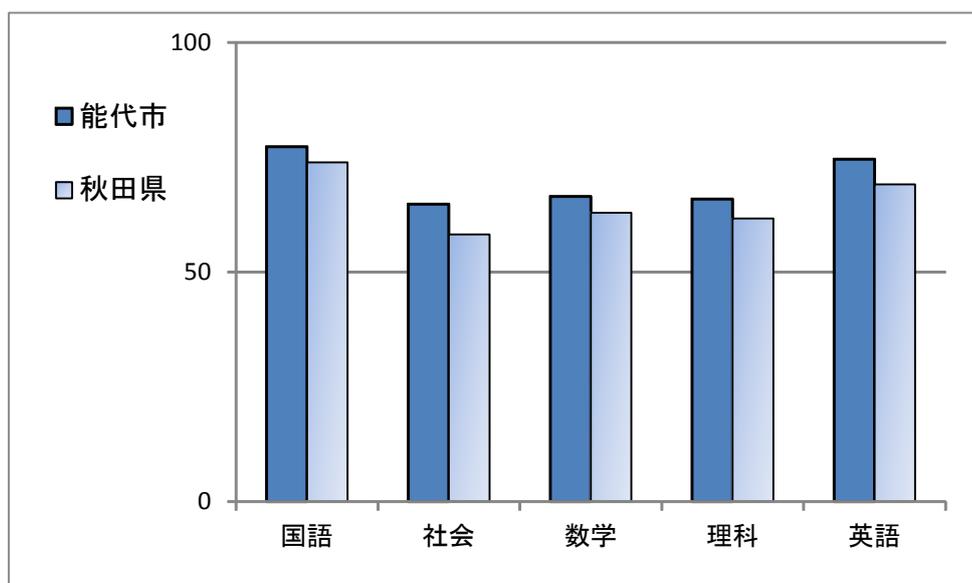
<理科> 20問中、16問が県平均を上回る。特に「うすい塩酸の性質」「植物の分類」は、県平均を10ポイント以上上回る。

<英語> 20問中、17問が県平均を上回る。特に「ペットを飼っているかどうかの聞き取り」「ふだん日曜日に関することについての英文作成」は県平均を10ポイント以上上回っている。

#### ★県平均を下回る主な課題・設問(▼特に県平均を5ポイント以上下回った問題)

国語	①漢字の読み 厳しい(きび) ②漢字の書き ちぢまる(縮) ③相手に分かりやすい語句の選択についての理解
社会	①日本の国際的地位の向上 ②戦後の日本の様子(東京オリンピック) ③国民の権利(選挙権) ④古代文明のおこり ⑤古代の文化の移り変わり▼(奈良時代から平安時代に文化の特色がどのように移り変わったか資料を読み取って答える問題)
理科	①同じ量の電気をためるための条件 ②金属の性質 ③濃度の求め方 ④顕微鏡の使い方(※小5でも顕微鏡の使い方に課題)
英語	①日付の聞き取り ②スポーツ名の聞き取り ③時間割についての読み取り

## (5) 中学校 2 年生平均正答率



☆ 各教科とも、良好な状況です。

○全ての教科が全県平均を上回る。特に、社会、英語では県平均を5ポイント以上上回っている。

<国語> 20問中、18問が県平均を上回る。特に「話の要点を聞き取る」「話の構成や展開に注意して聞き取る」「文章の構成を捉える」の3問は、県平均を10ポイント以上上回る。

<社会> 20問全てが県平均を上回る。特に、「世界の主な宗教の分布」「世界の様々な地域の調査(資料読み取り)」など5問で、県平均を10ポイント以上上回る。

<数学> 20問中14問が県平均を上回る。特に、「分数×小数の計算」など3問は県平均を10ポイント以上上回るが、下の表にあるとおり、県平均を下回る問題も多い。

<理科> 20問中、19問が県平均を上回る。特に、「アンモニアの性質」は県平均を10ポイント以上上回る。

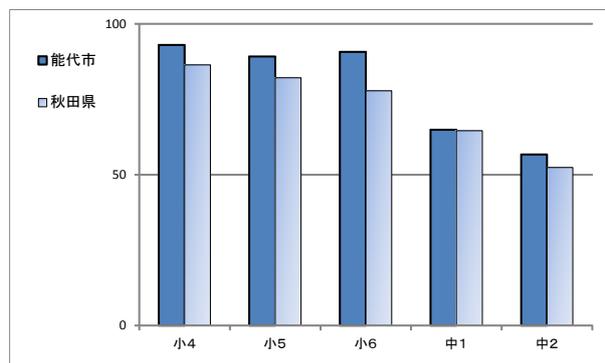
<英語> 20問中、18問が県平均を上回る。特に「来年したいことについての英文作成」「不定詞の形容詞的用法を含む文の構造」は、県平均を10ポイント以上上回る。

★県平均を下回る主な課題・設問(▼特に県平均を5ポイント以上下回った問題)

国語	①四字熟語「一日千秋」の理解 ②単語の類別についての理解
数学	①等式変形 ②連立方程式の計算 ③代表値の選択 ④一次関数の式 ⑤二元一次方程式が表す数量の関係 ⑥一次関数の利用(解決方法の説明)
理科	① <u>凸レンズによる虚像の見え方▼</u>
英語	①日付の聞き取り ②図書館に何時間いたのかの聞き取り

# Ⅲ 質問紙調査結果

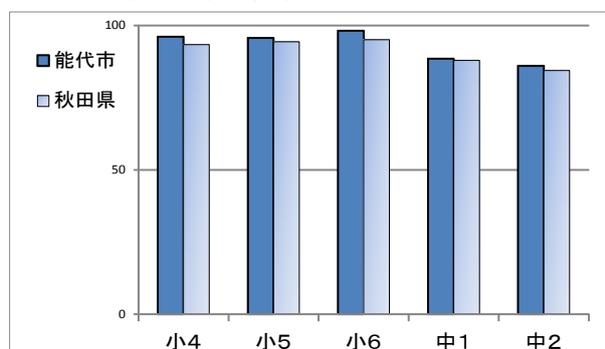
## 1 勉強が好きだ



### 「強くそう思う」と「そう思う」の割合

全ての学年で、県平均を上回っています。先生方が日頃から児童生徒の興味・関心を高めるような授業づくりをしていることが分かります。特に、小6では、県平均を10ポイント以上上回っていることが素晴らしいです。

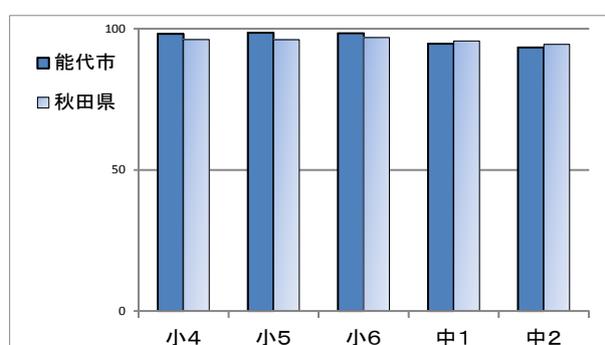
## 2 学校の勉強がよくわかる



### 「強くそう思う」と「そう思う」の割合

この質問に関しても、全ての学年で県平均を上回りました。各校の授業改善に対する取組が確実に成果を上げています。

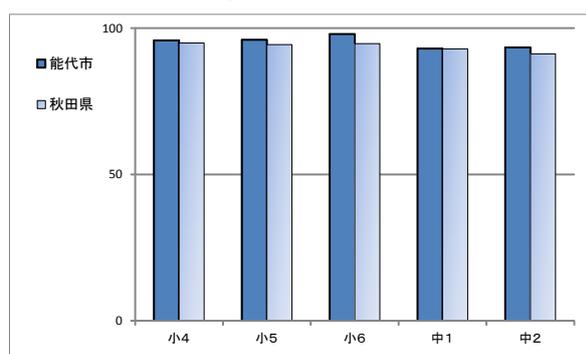
## 3 ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい



### 「強くそう思う」と「そう思う」の割合

小学校では、県平均を上回りましたが、中学校で1ポイント程度県平均を下回りました。次期学習指導要領に向けた三つの柱の一つである、「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性』の涵養」を意識し、さらに工夫改善に努めてほしいと思います。

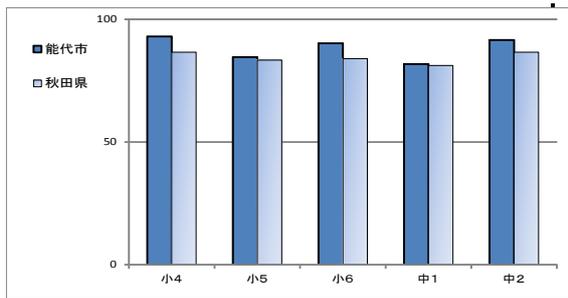
## 4 学校が楽しい



### 「強くそう思う」と「そう思う」の割合

ほとんどの児童生徒が、学校が楽しいと感じています。しかし、少数ですがそう感じていない児童生徒がいるのも事実です。その子のよさを生かし、集団の中で自己存在感を味わわせるなどの配慮が必要です。

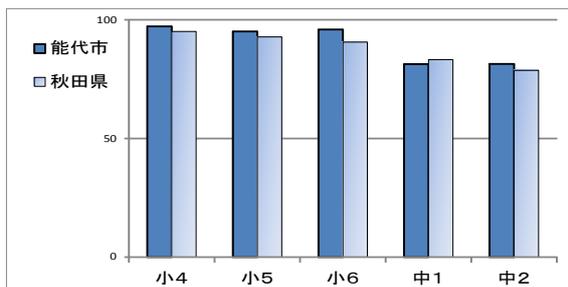
## 5 自分にはよいところがあると思う



「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合

どの学年でもより多くの児童生徒が自己肯定感をもっていることがうかがえます。活躍の場を与え、褒められたり認められたりする機会を多くつくり、自信をもたせていることがわかります。

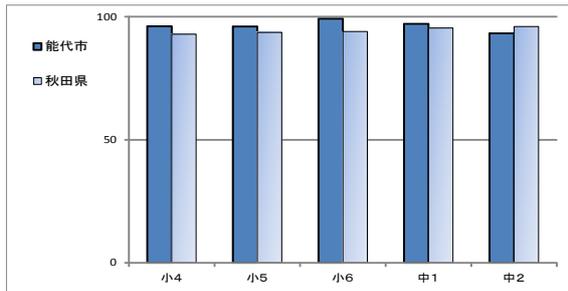
## 6 将来の夢や目標をもっている



「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合

中1で将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合が、県平均を下回りました。小・中の接続や進路指導などを各校で丁寧に行うとともに、キャリア教育の充実を図ることが大切です。

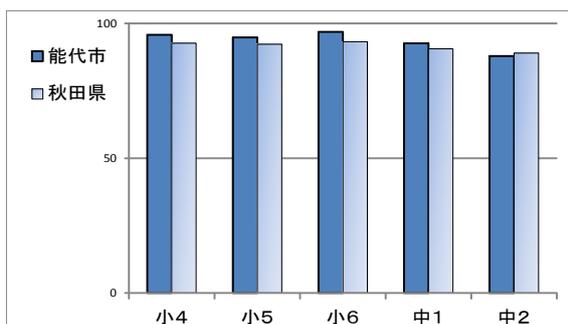
## 7 学校のきまりを守っている



「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合

ほとんどの児童生徒が、学校のきまりを守っていることがうかがえます。なぜきまりを守ることが大切なのかということを話し合うことも含め、今後も規範意識を育てていくことが大切になります。

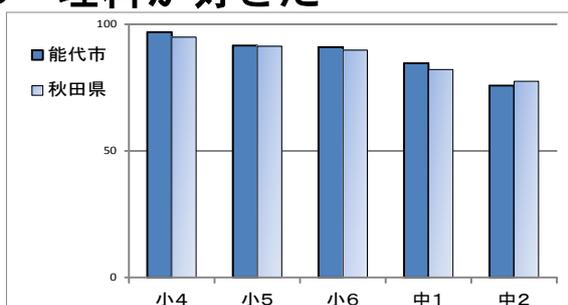
## 8 地域のためになる活動に取り組みたいと思う



「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合

今年度はじめてこの項目を取り上げました。各校ではふるさとキャリア教育にも力を入れていることで、ほとんどの児童生徒が「地域のために」という郷土に対する意識を高めていることがうかがえます。

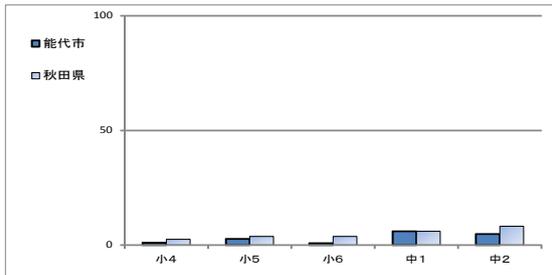
## 9 理科が好きだ



「大好き」と「好き」の割合

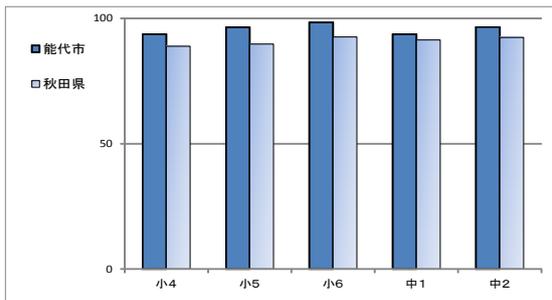
2年連続、県平均を下回った中2の理科の成績が、今年度は4.2ポイント上回りました。質問紙において、好きな理由に「考えるのが楽しい」を選択している児童生徒が多いことから、成績アップの要因がうかがえます。

## 10 1か月に本を1冊も読まない（不読率）



昨年度に引き続き、全ての学年で、県平均を下回りました。各校で「めざせ！不読率0」をテーマに掲げ、全校で読書に関する集会を開いたり、学校図書館の環境を工夫したりした成果が顕著に表れました。

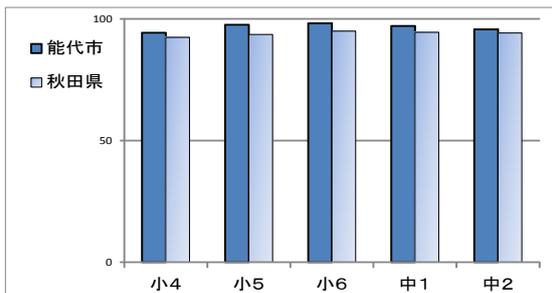
## 11 ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があると思う



「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合

全ての学年で、県平均を上回り、90%以上の児童生徒が、授業中に発表する機会を与えられていることを実感しています。その積み重ねが、児童生徒の自己有用感を育てていると感じます。

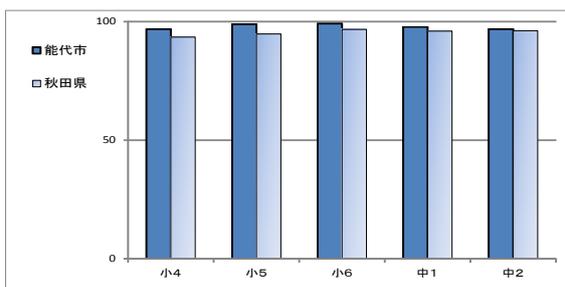
## 12 ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う



「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合

この項目も、全ての学年で県平均を上回り、95%以上の児童生徒が話し合いのよさを実感しています。各校が、主体的・対話的な授業づくりに努めていることが数値に表れています。

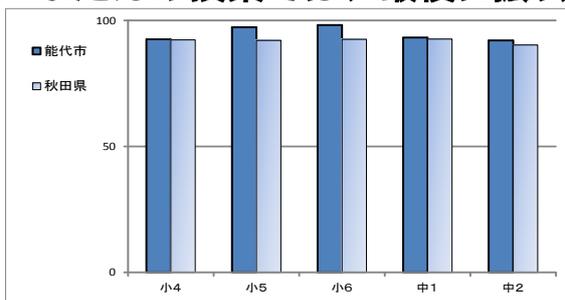
## 13 ふだんの授業では、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいると思う



「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合

全ての学年で県平均を上回る、ほぼ100%に近い割合でした。また、めあてや課題を児童生徒とともに作るという意識が高まっていることも、この結果に表れていると思います。

## 14 ふだんの授業では、最後に振り返る活動をよく行っていると思う



「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合

昨年度3.2ポイント県平均を下回った中2も含め、全ての学年で県平均を上回りました。確実に振り返りに達する授業づくりを心掛けていることが学力向上に結び付いています。